

横浜市教育委員会
定例会会議録

- 1 日 時 令和元年11月1日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉渕教育長 大場委員 間野委員 宮内委員 中村委員 森委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和元年 11 月 1 日（金）午後 2 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項
産学官協働による ICT を活用した部活動支援について
「よこはま子どもピースメッセンジャー」の国際連合等への派遣について
- 3 審議案件
教委第 32 号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について
教委第 33 号議案 横浜市立小学校における傷害事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について
- 4 その他

[開会時刻：午後 2 時00分]

鯉渕教育長

それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。10月4日の会議録の署名者は間野委員と中村委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、10月18日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小椋教育次長

【一般報告】

1 市会関係

○10/29～31 こども青少年・教育委員会（視察）

教育次長の小椋です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、10月29日から31日まで、こども青少年・教育委員会の視察が行われ、齊藤総務課長が同行してまいりました。今回は沖縄県を訪問し、石垣市で児童虐待対策における地域連携についての説明を受けるなど、各都市の取組を視察してまいりました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○10/21 スクールミーティング

○10/23、24 第69回 横浜市立小学校体育大会

○10/24～26 世界の子供たちと中学生のラグビーを通じた交流

(2) 報告事項

○産学官協働によるICTを活用した部活動支援について

○「よこはま子どもピースメッセンジャー」の国際連合等への派遣について

次に、市教委関係の主な会議等ですが、10月21日に教育委員が学校現場を訪問するスクールミーティングを実施いたしました。今回は、鯉渕教育長、大場委員、宮内委員、中村委員、森委員が西区の一本松小学校を訪問し、授業の視察を行いました。一本松小学校はオリンピック・パラリンピック教育の推進校となっています。当日は、ポッチャを通じた異学年交流など、「もりあげる」「やってみる」「ひろげる」「つなげる」をテーマとした学校の取組を視察し、意見交換を行いました。

10月23日、24日に横浜市立小学校体育大会が三ツ沢公園陸上競技場で行われ、23日には鯉渕教育長が出席し、挨拶いたしました。この大会は市立小学校6年生約3万人が参加するもので、今年度は地区ごとに4日間の日程で実施しております。大会には、400メートルハードルでオリンピックに出場された陸上競技選手の野澤啓佑さんが来場し、子供たちの前で実際にハードル走を見せてくださり、ま

た、御自身の経験談やスポーツの楽しさをお話いただきました。大会の3日目は11月6日に、4日目は11月7日に開催する予定です。

10月24日から26日に、ラグビーワールドカップ2019に関連して、横浜の中学生と世界の子供たちがラグビーを通じた交流を行いました。交流には仲尾台中学校の生徒が参加し、文化交流、タグラグビー交流、ワールドカップ準決勝観戦等を、日本を含めて9つの国や地域の子供たちと一緒にを行いました。また、タグラグビー交流では、元日本代表の廣瀬俊朗さん、五郎丸歩さん、元イングランド代表のジョニー・ウィルキンソンさんらが子供たちと一緒に汗を流し、ラグビーの楽しさを伝えていただきました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点、報告させていただきます。まず、1点目ですが、産学官協働によるICTを活用した部活動支援について、次に、2点目ですが、「よこはま子どもピースメッセンジャー」の国際連合等への派遣について、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長

報告が終了いたしました。何か御質問等がございますか。

特に御質問がなければ、産学官協働によるICTを活用した部活動支援について、所管課から御報告いたします。

直井学校教育
企画部長

学校教育企画部長の直井でございます。ICTを活用しました新しい形の部活動支援について、報告させていただきます。詳細につきましては、所管課長よりお話をさせていただきます。

石川小中学校
企画課長

小中学校企画課長の石川でございます。お手元にお配りしております「産学官協働によるICTを活用した部活動支援について」という資料を御覧ください。まず、本事業の趣旨ですが、資料の冒頭でございますとおり、本市では、中学校部活動の充実と教職員の負担軽減などを目的に、顧問を担うことができる「部活動指導員」を学校に配置するなど、部活動支援に取り組んでおります。部活動には顧問教諭がおりますが、その顧問がその部活動の競技経験がないことから不安や負担を感じているケースがあり、これに対する支援が必要と考えております。併せて、生徒がより専門性の高い技術指導を受けることができるよう、ICTを活用した部活動の遠隔指導を試行的に行うものでございます。

「1 事業概要」を御覧ください。本取組は、ソフトバンク株式会社と桐蔭横浜大学との協働により実施してまいります。事業の流れとしまして、図の右下でございますが、まずソフトバンクは中学校にタブレット端末を貸与し、中学校と桐蔭横浜大学に専用のシステムサーバーを提供いたします。中学校では、中学生の部活動の様子の動画をタブレット端末で撮影し、サーバーにアップロードします。左下の桐蔭横浜大学では、アップロードされた動画をサーバー上で確認し、生徒一人ひとりに対する指導コメントや返信動画を作成します。返信内容は、担当の教授による確認を経た後にサーバー上にアップロードします。中学校では、返信された内容を確認し、生徒が自らのスキルアップや目的達成につなげるという一連の流れを繰り返すものでございます。

資料の下のほうにあります。2つ目としまして「事業のポイント」でございます。大きく分けて3点挙げております。1点目はそこでございますが、「教員の負担軽減」です。冒頭の事業の趣旨でも触れましたが、顧問である教職員に競技経験がない場合などを想定しており、遠隔指導を取り入れることによる負担軽減を図るものでございます。

裏面を御覧ください。2点目としまして、「生徒の主体的な活動につなげる」としてあります。生徒が動画を通して自分自身の動作を客観的に把握した上で指導を受けることによって、自ら課題を解決する力を育むことができると考えます。部活動における生徒の自主的・主体的な活動につなげることができるものと期待しております。

3点目です。「学生の指導力向上」を挙げております。本事業において指導を行う桐蔭横浜大学の学生は、教員を目指す学生です。中学生への指導に携わることは貴重な経験であり、実践的指導力の向上や人材育成につながるものと捉えております。

最後に、「3 対象校等」でございますが、鶴見区市場中学校のサッカー一部を対象としております。サッカー部の在籍生徒は15名、顧問2名で行っております。試行段階として、3年生が引退して新チームへの移行をした9月から令和2年3月末までを期間としております。報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御質問等はございますか。

森委員

御説明をありがとうございます。非常に興味深い、新しい取組だなと思います。より理解するために幾つか質問をしたいと思います。どのぐらいの時間差があるものなのかなと思います。今、想定している範囲で、生徒が動画をアップロードしてから、大学のほうから実際にコメントが戻ってくるまで、想定している期間は1日、2日なのか、何週間という感じなのか、もし分かるようでしたらお願いします。

あとは、今のところはサッカーということでございましたが、今もし議論の中で今後想定する部活動として、こういった部活動も応用できるのではないかといいところがありましたら、例えば運動部以外にもとか、そういったものがあるのかどうかというのも教えていただければと思います。

最後に、指導するということでの関係性についての質問ですけれども、動画を送ったり送り返してもらったりという期間の前とか後に、実際に対面で会ったりとか、実際にこういう人に見てもらうんだなというような機会があるのかなのかということがもし分かればお願いします。

石川小中学校
企画課長

小中学校企画課の石川でございます。先ほどの、送ってから戻ってくるまでの期間は概ね1週間程度を見込んでおります。特に決めているものではありませんが、今のところ1週間程度と考えております。

それから2点目のほかの部活動ということですが、まだ試行を始めたばかりなので、これから検討していきます。ただ、全然この形ではなく、スマートコーチという別の事業ですが、昨年度、この実践の前にソフトバンクのほうからお申し出がありまして、学生ではなく元々プロで活躍されていたコーチによる遠隔指導のトライアルを無料で行いました。それは野球部とソフトテニス部でした。ほかの部活で応用できるかにつきましては、今後検討していきたいと思っております。

最後に、本人と会ったかどうかということですが、事前に会って話しております。この後どのようにしていくかについては、また検討していきたいと思っております。今のところ、事業の前に一回会っております。

森委員

部活動をいろいろな方々がこういった形で支えていくという動きはとてもいいなと思いますので、今後の効果の検証などでまた状況を伺えるのを楽しみにして

います。ありがとうございます。

中村委員

ありがとうございました。今のお話を伺うと、この事業はスマートコーチというものがきっかけになってこれが始まったという理解でよろしいのでしょうか。

石川小中学校
企画課長

トライアルとして行ったものがございます。

中村委員

それで、タブレット等を貸与していただけるということですが、今、拝見しますと、サッカー部の人数は少ないですね。もっと多くなった場合には、対応は難しいということですか。それとも、人数的に多くても対応は可能なのでしょうか。

石川小中学校
企画課長

まず、端末についてはもちろん1人1台ということではないので、それもソフトバンクとの相談になっていくと思います。一番はコーチになる学生の人数等も含めて今後検討していかなければならないなと思っています。

中村委員

ありがとうございました。この中に遠隔指導というお話がありました。学生さんということなので時間的には難しい面もあるかもしれませんが、例えばこれから先、1週間のタイムラグがなくて、リアルタイムで送ったものをそこで同時にすぐ指導していただけるというような可能性はあるのでしょうか。

石川小中学校
企画課長

相手が学生であると、それはなかなか難しいかと思えます。学生も授業がございますので、実際にはリアルタイムというのは難しいかなと思っております。

中村委員

ありがとうございます。先ほど森委員もおっしゃっていましたが、これを一つのきっかけとして、部活動以外に学習面でも、今は個に応じた指導ということがすごく言われていますよね。ですから、そういう方面にも可能性をまた広げていただけるとありがたいなと思えます。以上です。

鯉渕教育長

ほかによろしいでしょうか。特になければ、次の「よこはま子どもピースメッセンジャー」の国際連合等への派遣について、所管課から御報告いたします。

直井学校教育
企画部長

引き続きよろしく願いいたします。学校教育企画部長の直井でございます。今年度もよこはま子どもピースメッセンジャーをニューヨークの国際連合本部等へ派遣しましたので、御報告をさせていただきます。詳細につきましては、所管課長から御報告させていただきます。

石川小中学校
企画課長

小中学校企画課長の石川でございます。お手元にお配りしております「『よこはま子どもピースメッセンジャー』の国際連合等への派遣について」という資料を御覧ください。

まず初めに、「1 目的」でございます。こちらは国際機関の訪問を通じて国際平和への貢献を体験的に学ぶとともに、国連国際学校への体験入学を通して、子供たちの国際感覚を養い、グローバル人材の育成に資することを目的として実施しているものでございます。

続いて、その下の「2 派遣児童生徒」でございます。本市では毎年「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」というものを実施しております。市内の小

中学校から約5万人の児童生徒が参加し、国際平和のために自分がやりたいことをテーマにスピーチを行っております。今回の派遣児童生徒は、このコンテストの本選で横浜市長賞を受賞した4名の児童生徒で、この4名を「よこはま子どもピースメッセンジャー」として委嘱し、派遣しております。今年度の「よこはま子どもピースメッセンジャー」は、一覧表に記載した4名となっております。

次に、中ほどの「3 派遣期間」ですが、出発が10月13日日曜日の午後、帰ってききましたのが10月20日日曜日の午後でございます。出発前日の12日に台風19号が上陸し、飛行機の欠航が心配されましたが、子供たちの集合時間には既に雨も上がっており、搭乗予定だった飛行機は、出発時間は遅れましたが、欠航することなく出発することができました。

次に「4 主な活動内容」を御覧ください。派遣では国連の関係機関を訪問し会談させていただくとともに、よこはま子ども国際平和プログラム子ども実行委員、これはスピーチコンテスト本選に出場した子が実行委員になっているのですが、彼らが作成した「ピースメッセージ2019」を届けました。今回お会いした方々は現在、国連の関係機関やユニセフ本部、国連日本政府代表部で活躍されている方々で、表面の4番のところから裏面の上のほうに記載しているとおりでございます。今回はピースメッセンジャー4名のスピーチのテーマであります貧困ですとか差別ですとか、そういったテーマに沿った方々にお会いすることができました。

会談では、ピースメッセンジャーの4名を子供扱いすることなく、一人の対等な人間として扱い、それぞれの話に真剣に耳を傾けてくださったということです。ピースメッセンジャー一人ひとりがコンテストでどのようなスピーチをしたかということ英語で発表し、なぜそういったスピーチをしようと思ったかなど話もさせていただきました。また、ピースメッセンジャーからの私たちは何ができるのかというような質問に対しても、お会いした方々は皆真摯に意見を述べてくださったということで、子供たちにとって大変貴重な学ぶ機会になったのではないかと思います。また、裏面の上から4行目に書いてありますが、昨年度、市内の小中学校等で取り組みました「よこはま子ども国際平和募金」の9,869,608円の目録をユニセフ本部で進呈しました。

次にその下の「(2) 国連国際学校 (UNIS) への体験入学」でございます。派遣の後半には、国連国際学校という国連本部や各国代表部などの職員の子供を対象として設立された学校への体験入学も行いました。国連国際学校では、日本語学科の授業を体験させていただき、2日目には国連デーというイベントがございまして、国連国際学校の児童生徒がそれぞれの民族衣装を着てパレードなどが行われるとともに、各国の料理などが持ち寄られました。ピースメッセンジャーたちもイベントに参加しまして、それを通して交流することができました。ピースメッセンジャーたちは、日本から持参した日本のはっぴなどを着用して参加したということでございます。

最後に、「5 NY派遣に対するピースメッセンジャーの感想」を御覧ください。派遣を終えた感想を記載しておりますので、読ませさせていただきます。「お話を聞いたどの方も『今を生きる君たち、若者にかかっているんだ』と口をそろえておっしゃっていました。平和な世界にするためには、子供たちの声と力が必要であると学びました。『社会は必ず変わる!』そう気づかせてくれました。変えていくのはわたしたちだと実感させてくれた5日間でした。「常に『何がよりよいものなのか』を考えることが大切だということ新たに発見し、充実した5日間を過ごすことができました。そして、わたしたちは待っているだけでなく、もう今からリーダーであり、わたしたちが声を出すことで世界が変わるかもしれ

ないということを実感できた日々でした」。「到着をすると今まで自分が考えていたものをはるかに超える大きさでいろんな国の人が歩いているところを見ることができ、それをすごく素敵に感じました。お会いした方々すべてが私たちに期待をしてくれていると思えました。期待に応えるだけでなく、自分の意思もはっきりしていきたいと思えました」。「『未来のリーダーではなく、今のリーダーだ!』という言葉がたくさんの方々からいただき、『未来をよりよくしていく』のではなく、『今』をよりよくするために活動していくと強く受け止めました。自分がこの地に立ち、ここから見えた広い世界へ『今』のことを伝えていきたいです」。感想は以上となります。

なお、下のほうに今後の取組としまして、今回のニューヨーク派遣のことを文化交流会などで報告し、4人が体験したことを広めていくとともに、ユニセフの街頭募金活動などに参加する予定となっております。報告は以上でございます。よろしく願いいたします。

鯉渕教育長

説明が終了いたしました。何か御質問等がございますか。

大場委員

御報告をいただきありがとうございます。私も夏のスピーチコンテストを拝見させていただいて、そのときの優勝者の皆さんたちが4人行かれたということで、いろいろ厳しい日程の中で、またいろいろな多くの関係者とお会いできて、本当によかったと思います。冒頭に書いてあったとおり、平成8年からスピーチコンテストが始まって、私もかすかな記憶ですが、スタート頃からたしかニューヨークには行っていたように思います。そうすると、平成8年からですから、もう22年ちょっとたっているわけです。ふと感じたのは、派遣を始めた頃にニューヨークへ派遣した人たちは今どのようにいろいろな分野でそのときの体験を生かしながら活動されているかというのを少し展望してみたいなと思いました。例えば全体を集約して、みんなでどこかで集まろうというような流れというのは、また新たな仕事をもち出すのはいけないことなのですが、横浜の代表で国連に行って、いろいろな方々に会った経験を持ったことが、どのように生きているのかなというのを少し探してみたいなという気がしました。いかがでしょうか。

石川小中学校
企画課長

小中学校企画課の石川でございます。今のところ、そのような集まりはありませんが、今後検討させていただきたいと思っております。

森委員

御報告をありがとうございます。裏面に「日本の学校との違いに驚いている様子でした」と書いてありました。子供たちは国連国際学校の日本語学科の日本語の授業を受けられたのですよね。その中で、同じ言語だけれども、授業の仕方が違ったとか、何か違ったから驚いたのだと思いますが、何に驚かれたのかというのがもし分かるようでしたら教えてください。その中で、日本の教育が当たり前ではないんだなというところとか、そういったことも気付けたのだろうかというのをこの文面からも感じましたので、お願いします。

石川小中学校
企画課長

同行しました担当の指導主事がおりますので、そこから御報告させていただきます。

吉川小中学校
企画課主任指
導主事

失礼いたします。小中学校企画課の吉川と申します。実際に授業を受けているところを私が見たわけではありませんが、多様性が、違っていることが当たり前の中で、子供たちは気付いたことがたくさんあったと思います。違っている中で

自分をアピール、自分を主張していくということの大切さを、彼らはほかの子供たちの姿を通して感じたのではないかなと思っています。言葉を超えて子供たちが自分に関わってこようとするとということに、とても喜びを感じていたことは、自分の言葉で私にも伝えていました。

森委員

それを踏まえて、何を感じられましたか。その子供たちの発言を聞いて。

吉川小中学校
企画課主任指
導主事

日本の中では感じ得ないことを、日本の中で今、自分たちが置かれている環境が決して当たり前ではなく、そこを超えて広く考えていかななくてはいけないということ、彼ら自身が感じたのではないかと思います。その感じたことを、学校の中で一人ひとりがどのように発信していくかということについて、彼らは今後考えていこうと思います。それはそれぞれのテーマの中で考えていると思いますので、そこには大きな期待ができるかなと思います。

森委員

ありがとうございます。今、自分をアピールしていくことがすごく必要だということをおっしゃいましたし、実際にメッセージの感想にも「自分の意思をはっきりしていきたいと思った」と書いてあって、恐らくそこら辺がすごく刺激だったのだらうと思います。英語だったりとか言語もそうだと思いますが、やはり黙ってはいけません。自分の思うことを常に発信し続けることが子供たちに求められる力になっていくのは確実だと思うので、気付いたことをまたこうやって発信していただいて、多くの方と共有できればと思いました。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかによろしいでしょうか。

宮内委員

先ほどのICTを活用した部活動支援と関連するのですが、教育委員会としてオンラインを活用して、例えば国連視察の疑似体験をするというようなサービスの提供、技術開発をぜひやっていただきたい。今、VRとかICTが急速に発達しております。ニューヨークに行って、肌感覚で多様性を感じることも大事ですが、疑似体験は非常に安価で容易にできる時代になっていると思います。そこで、オンラインでいろいろな体験をして、例えば地理的なこと、理科の実験もそうですが、実際に現場に行かなくても体験できます。そして、その後で訪問してみるとか、また外国からの学生なり児童生徒なりを受け入れるというように、オンラインと対面の組み合わせ、ちょうどスポーツのコーチングでサッカーをやるときに、例えばオンラインで骨格の動きのサイエンティフィックな学習をして、実際に身体を動かしてみる。その上で、対面でリアルな指導をしてもらおうというように、効率的な教育を進めるには、できるだけオンラインなど、EdTechというエデュケーションテクノロジーを使っていく姿勢を、教育委員会としてもっと前面に打ち出してください。子供たちを100人、200人単位でニューヨークに送ることは不可能ですけども、そういう疑似体験をした上で、例えば派遣した4人の人が体験を語ると、多分効果はもっと高く出るのではないかと思います。また、それでどういった効果が出るかということもきちんとデータ化して、どういうメソッドが教育的効果を持つのかということも研究していけばいいので、ぜひともオンライン、ICT、もしくはその先のAIを使った教育先進都市として日本を引っ張るような活動をしていただきたいというのがお願いであり、私もぜひやらせていただきたいと考えております。

直井学校教育 企画部長	<p>学校教育企画部長の直井でございます。アイデアを本当にありがとうございます。様々な技術が進んでいく中で、企業さんもそうですし、様々なアイデアをいただきながら一緒にやっていくという方向性だと思います。今いただいたアイデアも考えていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
宮内委員	<p>ちょっといいですか。世界中の企業がいろいろな技術開発をして、すごいスピードでイノベーションが起きている。これは事実ですが、大事なことはユーザー、また私たちが何で困っていて、何を解決したいかというのを彼らに提供することで、これがイノベーションにつながると思います。デザイン思考という言葉が流行っていますが、私たち教育界は課題のつぼで、教育現場ではどうしていいかわからないことだらけです。人がいないし、英語教育をしようと思っても英語の教員が少ない、数学を教育しようと思っても、できる子とできない子を一遍に教育するのは大変だなと。いろいろな課題を持っています。たまたま今は国際社会とのつながりや貧困がテーマですけれども、スポーツであっても個別指導が必要かもしれない。いろいろな矛盾や悩みを企業に提供すること、これが、ビジネス上の我々の価値だと思います。ということで、企業に教えてもらううんぬんというスタンスではなく、企業に問題をぶつけて、そしてイノベーションを引き起こさせるというような、能動的な組織にしていっていいかなと思っておりますが、間野さん、いかがでしょうか。</p>
間野委員	<p>僕らは今、多分、第4次産業革命の中に生きているので、革命のさなかに生きているときは革命を自覚しにくいのですが、宮内委員がおっしゃったように、あと数年たって振り返ってみると、ものすごく技術革新が進んでいるでしょう。その中で、やはりトップランナーとして横浜市は、例えばソフトバンクという会社が協力してくれたり、いろいろと恵まれた環境にあります。それを最大に活用していくと。それでも500校あって、27万人の子供たちですから、巨大なタンカーなので、今ちょっとかじを切ってもすぐには曲がりません。なるべく早めに何かやっていくということは、逆に護送船団ではありませんが、大き過ぎるから早めにやらないと、常に後手後手になっていく可能性があります。先に舵を切って、小さいほかの自治体がやっている教育と同じぐらいのスピードなので、常に先取りしていくことが大切ではないかと思いました。以上です。</p>
鯉淵教育長	<p>よろしいでしょうか。</p>
中村委員	<p>思い付きを話して申し訳ないのですが、今、幾つかの学校で南極教室と称して、南極基地と学校をリアルタイムで結んだ授業に取り組んでいますよね。先ほどの宮内委員のお話を聞いて思ったのですが、実際に国連に行って体験するということは、それはそれとしてすごく大事ですけれども、それは限られた人たちになってしまいます。思い付きで申し訳ないのですが、もし可能なら、例えば国連とか様々な機関とリアルタイムで、先ほどの遠隔授業ではありませんけれども、そのようなことが進められたらいいなとふと思いました。すみません。</p>
鯉淵教育長	<p>御提案ということで、よろしいでしょうか。 それでは次に、議事日程に従い、審議案件に移ります。 まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第32号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」は、人事案件のため、教委第33号議案「横浜市立小学校における傷害事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申</p>

出について」は、訴訟等に関する案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第32号議案、教委第33号議案は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から、報告をお願いします。

齊藤総務課長

次回の教育委員会臨時会は、11月15日金曜日の午後2時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、12月9日月曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は11月15日金曜日の午後2時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は12月9日月曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第32号議案 「横浜市学校規模適正化等検討委員会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第33号議案 「横浜市立小学校における傷害事故に係る損害賠償額の決定に関する意見の申出について」
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後3時14分]